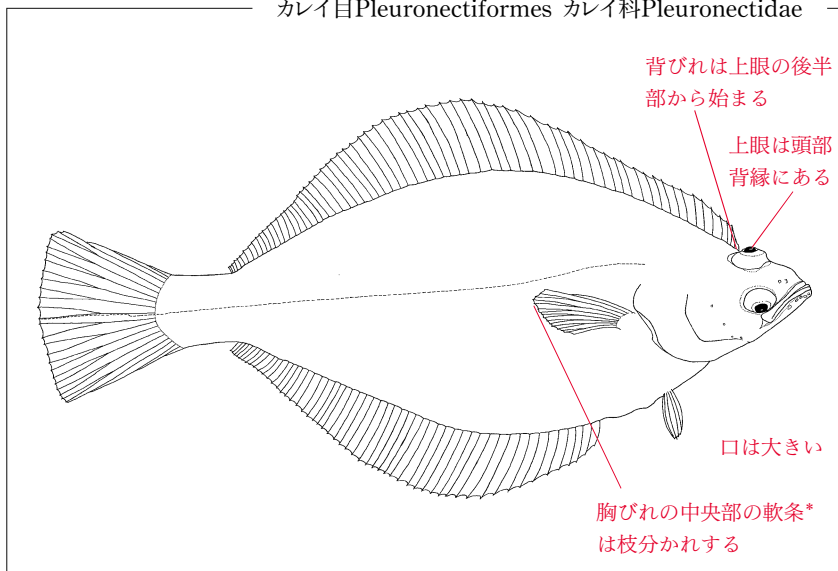


カレイ目Pleuronectiformes カレイ科Pleuronectidae



59. ソウハチ *Hippoglossoides pinetorum* (Jordan and Starks) 図版23

英名 pointhead flounder

露名 オストログローワヤ カムバラ
остроголовая камбала

地方名(北海道) ソウハチガレイ、ソオハチ、サツパ

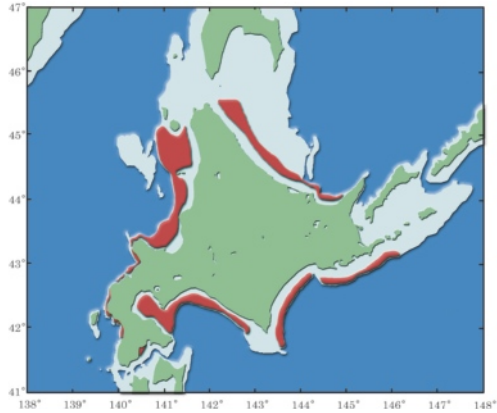
漢字 ソウハチ
宗八

アイヌ語名 カバラサマンベ

【形態】 体はひし形に近い長楕円形で強く側扁*し、口は大きく、吻*はとがる。左眼は頭の上部にあり、無眼側*からも見える。側線*はほぼ直線状。うろこは有眼側*が櫛鱗*か円鱗*、無眼側が円鱗。有眼側は暗褐色で、緑色から黄色みを帯びる。無眼側は白色で、縁辺は透明感を持つ個体が多い。

【生態】 サハリン、北海道沿岸のほか、太平洋側では千島列島から福島県まで、日本海側では沿海地方から東シナ海北部まで広く分布する。北海道では水深数mから250mの広い範囲に生息するが、季節によって分布の中心は変わる。北海道日本海沿岸では、あまり大きく移動せずに生活する群れと、日本海で生まれて卵や仔魚*期に海流によってオホーツク海に運ばれ、未成魚*期をオホーツク海で育ち、再び産卵のために日本海にもどる群れが考えられている。

索餌^{さくじ}期には成魚*、未成魚とも雌雄が同様に生活するが、産卵期が近づくとまず雌の成魚が岸に寄り始め、雌の生殖巣が成熟*するところに雄がやって来て、産卵を始める。産卵の盛期は山陰沖で2～3月、佐渡海峡北部で4～6月、石狩湾で6～7月、えりも岬以西太平洋海域で6～7月、えりも岬以東太平洋で7月下旬ごろと北ほど遅い。また、



北海道におけるソウハチの漁場

8～9月に石狩湾の沖合から武蔵堆^{むさしたい}周辺にかけて卵や仔魚が採集されていることから、この時期にも産卵していると考えられる。主な産卵場所は、北部日本海では水深60m付近、えりも岬以西太平洋では噴火湾湾口部から湾内である。

卵は直径0.90～1.03mmの分離浮性卵*で無色透明に近く、卵膜*に特殊な構造を持たない。囲卵腔^{いらんこう}*は狭く、油球*がない。平均水温13.1℃では103～111時間、17.6℃では66時間でふ化する。ふ化直後の仔魚は全長*約3mm。体長*8mmまでは体は左右対称で、8mmを超えると左眼が上方へ移動する個体が現れ始める。体長11mmほどで左眼が頭部の背縁に達し、右眼も下のほうへ移動し始める。

石狩湾では、着底*直後の体長20mmほどの稚魚*が8月下旬～9月に水深30～70mで採集される。稚魚はその後、冬から春には水深30mを中心に分布し、満1歳になるころから50mより深い所に分布域を移す。翌春、再び浅い所へ現れるが、0歳魚より深みに分布する。3歳以上の魚は主に水深50mよりも深い所に分布する。

雌は雄より成長が速い。石狩湾では雄は3歳で全長13cm、4歳で16cm、5歳で18cm、雌は3歳で15cm、4歳で18cm、5歳で21cmで、これは山陰西部や八戸沖に比べ少し遅い。初めて性成熟*する全長は、雄で12～21cm、雌で17～27cmと個体差が大きい。

仔魚の餌は成長とともに、カイアシ類*のノープリウス*幼生*からコペポダイト*幼生や成体*へと変わる。未成魚や成魚ではオキアミ類*が多く、ヨコエビ類*、エビ類、イカ類、クモヒトデ類*、小型魚類なども食べる。ほかのカ

レイ類と異なり浮遊性のものを多く食べる。